

○建物の劣化診断を実施しています。



①器具を使用して外壁を叩き、劣化の進行を確認する様子



②屋上防水シートの劣化の様子

現在、町が保有する建物の診断を実施しています。

専門家の方の「目視、触指、打診」による方法で実施し、最終的には建物の劣化具合を数値化することを目的としています。

②の写真は、屋上防水シートの様子です。太陽に当たり続けることで劣化が進行し、赤い円で囲んだ部分は、水が溜まっていた跡が残っています。

この劣化が更に進行すると、建物内に雨水が浸透して室内での雨漏りとなるだけでなく、コンクリートの劣化へと繋がります。



③外壁コンクリートの劣化の様子

③の写真の赤い円で囲んだ部分は、外壁コンクリートの劣化が進行し、ひび割れている部分と剥がれ落ちている部分です。

町が持つ建物の6割以上は、建築から30年以上経過しており、写真のように劣化が進んでいる箇所が点在しています。

この診断結果により、建物ごとの劣化具合を数値化するだけでなく、修繕する場合の費用を概算で算出することも予定しています。

上記のような建物の劣化診断のほか、施設ごとの利用率や維持管理に要した費用などの情報を現在集約しています。今後は、劣化診断結果に基づく「ハード面の評価」と、利用率やコスト状況など「ソフト面の評価」を各施設ごとに実施し、その評価結果を平成30年度から2ヶ年かけて策定する「公共施設再編計画（＝施設の統廃合、長寿命化、複合化等の実施時期を決める計画）」の判断材料とする予定です。